



～ 夢ひとすじに ～
宮原中だより
学び 磨き 鍛え 羽ばたけ

令和 6 年度 第 5 号
令和 6 年 8 月 2 8 日 (水) 発行
さいたま市立宮原中学校
ホームページアドレス
<http://miyahara-j.saitama-city.ed.jp>
メールアドレス
miyahara-j@saitama-city.ed.jp

『成功や失敗のごときは、ただ丹精した人の身に残る糟粕』

校長 田 中 和 浩



生涯に多くの企業の育成と、社会公共事業に関わり、「近代日本経済の父」と呼ばれる、渋沢栄一氏をご存じでしょうか。2021年にNHKで大河ドラマが放映され、先日7月3日(水)に、肖像の入った新しい紙幣も発行されました。

私はこの夏休みに、その渋沢栄一氏の生家を訪ねてまいりました。渋沢栄一氏は、江戸時代の後期に、いまの埼玉県深谷市で生まれました。幼少期には、商才にたけた父親の背中から学び、商売の面白さに目覚めます。しかし、時代は幕末の騒乱を迎え、渋沢栄一氏も尊王攘夷運動に傾倒します。そののち徳川慶喜公に仕えたことで渡仏。海外の文化を学び、大政奉還後の日本に戻ります。明治政府では、官僚として国の基盤作りに注力しますが、より豊かな国作りのためにと、官僚を退き自ら起業して民間の力で様々な産業を興しました。

その渋沢栄一氏の思想や信念の根幹を記したとされる著書が「論語と算盤」です。「論語と算盤」の大きな主張は、「道義を伴った利益を追求せよ」「自分より他人を優先し、公益を第一にせよ」というものです。

その「論語と算盤」の、一節の締めくくりの言葉として挙げられているのが「成功や失敗のごときは、ただ丹精(たんせい)した人の身に残る糟粕(そうはく)」です。「糟粕(そうはく)」とは、酒造りの際にでる「酒粕(さけかす)」のことで、「よいところを取り除いた後の残りかす」という意味です。「成功」や「失敗」といった結果は、ただの残りかすに過ぎない。「真心を込めてひたすらに励んだ人の努力の過程こそが大切である」と説いているものです。よいことが続くことがあれば、悪いことが続くこともあります。「成功」や「失敗」といった結果だけを見て一喜一憂するのではなく、いつかやって来る機会に向けて自分を磨く努力をし続けることが大切です。そうして、「誠実に人事を尽くし続けていれば、いつか必ず道は開ける」「最も大事なことは『人としてどう生きたか』ということだ」と、渋沢栄一氏は力強く語っています。

日本の礎(いしずえ)を築いた渋沢栄一氏ですが、その人生は、思い通りにいかないことの連続でした。時代の流れの中でその都度、生き方を変える選択に迫られることが多くありました。しかし、道義を伴った利益を追求し、公益を第一に考え偉業を成し遂げました。その根源的な姿勢が、この言葉にあらわれているように思います。

学校総合体育大会県大会、関東・全国大会が終わりました。

剣道、男子バスケットボール、男女バレーボール、卓球、硬式テニス、水泳、陸上の夏の大会が終わりました。私も可能な限り応援に伺わせていただきました。選手のみなさんの勝利を信じてボールを追う姿、厳しい状況にも最後まであきらめずに戦う気持ちを見せる姿、試合後の清々しくさわやかな姿にとっても感動しました。選手をはじめ、サポートしてくれた生徒のみなさんを称えるとともに感謝を申し上げます。また、引率、応援等でご協力いただきました保護者の皆様に、改めて感謝を申し上げます。ありがとうございました。